

交通と環境問題

茅 誠司*

Traffic and Environmental Problems

Seiji KAYA*

交通で一番重要に扱われるのは事故である。交通規則を守ること、注意を怠らないこと、交通規制を厳重にすること等は、車の運転者も警察も手をつくしてきたので、随分と事故の数は減少してきた。また、運転者のマナーも良くなって、互いに道を譲り合う光景等によく出会う。

筆者は、自動車安全運転センターという法人の評議員を仰せつかっているが、歳が歳なので評議会の議長に選ばれた。ある時にこの会で、議長として会の終わりに「何か御意見、御質疑はございませんか」と言ったところが、全員から発言がないので、「議長が質問するというのは、おかしいですが」と言って、次のことを尋ねてみた。

「私は車に乗って行く時、いつも空罐が捨てられていないかに注意している。これは、最近私どもの行っている『小さな親切運動』で、この運動の20周年を記念して全国の空罐をなくす問題を取り上げることにしたからである。そこで気がついたことは、道路の交差点の進行方向からみて右側のベルト地帯に、沢山の空罐が捨てられているということである。特に、環状7号線と水道道路のベルト地帯には、長い間に互って空罐の山が築かれていた。これは、信号待ちをしている車から空罐を捨てたことは申すまでもない。ある時、神奈川県下の田舎をドライブしていたら、信号待ちの所には必ずといってよい程、空罐が転がっていた。2、3年前からこの空罐をなくそうという運動が世界的に広がっている。米国のオレゴン州では、法律を作って空罐を捨てるのを禁じ、また、ある州では空罐を買上げるようにしている。日本でも、京都市で真っ先にこの種の法律を作って、空罐を捨てるのを規制しようとしている。そこで私の質問というのは、この空罐を道路からなくすという事は、このセンターとどんな関係にあるかということですよ」というものである。

誰もこれに答えてくれる人はいなかったが、側にいた政府の人が「それは、行政の問題ですよ」と言ってくれた。私は、しかし、「これは運転者の心の問題ですよ」と自問自答していたのである。自分の環境を守ろうという心があれば、このようなことは起こらない。多分この空罐を捨てる時は、多年の習慣によって無意識の中にポイと車外に捨てるに相違ない。

最近、街を歩いていて気がついたことだが、今は路傍に痰を吐く人がいなくなったことである。私どもの子供の頃は、大きな咳と共に道端に痰を吐く人が実に多かったが、幸いなことに今はあまり見かけない。これと同様なことで、運転者のマナーとして、空罐を車外に捨てるなどは絶対すべきでないということを幼い時から習慣になるように徹底しておくべきではなかろうか。このくらいのが立派な運動をする人間に守れないことはないと思う。

いま一つ付け加えておきたいことは、空罐を平気で車外に捨てるという人間の心は、空罐の場合にだけ発揮されるのではないということである。環境を美しく守ろうという心があれば、痰も吐かない、紙屑も捨てない、吸殻も捨てないのであって、それは、全部の心に共通している。それだけの心を持って車を運転してこそ、信号無視もしないし、事故も起こさないことに直結していることと思う。

人が見ているから空罐を捨てないなどという、似て非なる道徳心を持っていては、事故を起こさないという保障にはならない。

* 国際交通安全学会会長，東京大学名誉教授
IATSS President, Professor Emeritus, University of Tokyo
原稿受理 昭和57年4月22日